[illegible]百八十七名なりしが職工の主謀者等は警察署に拘束せられ[illegible]し構内各所の

水道に危險

物を裝置し又は機關車の進行し來るや軌條上に瓦礫を横たへ或は眞面目なる就業者に對し暴力的脅迫を加へ或は留守宅が危險なりなど言觸らし一般を恐怖せしめたる爲め六千餘名の人夫は直に退去せり之が爲め同夜は切詰めたる入門者の數に異狀を來し怠る作業に困難を生じたる爲め製鐵所側は直に五十七名の臨時呼出を爲し應急策を講じたるが熔鑛爐

作業の職工

は依然怠業を繼續し同夜十二時に至り漸く淨服に着換へ就業したるが殊に主要工場なる中央汽罐場又百六十名の職工中僅に十名の就業者あるのみにて他の百五十名は怠業を爲し骸炭工場を除く外眞面目の作業を爲す者なく首謀者(二)中川順之助(二五)岡久次郎(二八)鐘ケ江彦次郎(二七)安部鐵藏(二八)大村春記(二四)の六名が

不穏の言辭

を弄し煽動的態度に出で脅迫暴行をもし兼ねまじき事態ありしより午後十一時頃警察隊に引致檢束され斯くて同夜は不穏の内に明けて八日に及びたり之に反し八幡市の或は不平分子が萬一の事に

[illegible]職に就き非常に寂寞の感を深くせしめたり

就業職工數

昨日の製鐵所

八日晝間の製鐵所作業人員は職工千九百三十二名、人夫七百十八名にして主要工場の職工從業數は熔鑛爐は二百六十六名の定員に二百三名、中央汽罐は百八十八名の定員に百六十二名、蒸氣汽罐場三十六名の定員に三十五名、送風機室五十三名の定員に四十七名、骸炭工場二百六十一名の定員に二百二十四名、洗炭工場百四十六名中百十九名、原料工場四百名中二百十八名なりと云ふ

友愛勞友協議

善後策に就き

七日午後九時勞友友愛兩會の幹部九名は市内豐山公園に會合し善後策に付協議せんとせしも警戒嚴重なる爲め一應散會し十時より久野公園にて再會し數時間に亙りて種々協議選策する所ありたり

勞友會長 以下六名

令狀執行さる

今回の罷工騷ぎに關し其の筋に引致又は檢束せられたる者數十名に及びたるが安達檢事正以下

[illegible]せしが如く靜なりしもの

天宅事務官來幡

事實取調の爲め

内務省にては安河内知事の報告に接し製鐵所罷工事件を重大視し警保局事務官天宅敬太郎氏を事實取調べの爲め出張せしむる事となり同氏は七日夜十一時三十分八幡着の列車にて來幡直に八幡警察署の高等警察部長を訪ひ事件の原因及び今日迄の經過に就き詳細の聽取をなし續いて野村署長よりも詳しく報告を受け八日午前五時同署に假眠し更に八日は製鐵所に中川次長を訪問し各工場をも巡視し尚一兩日滯在の筈なりと

憲兵增派

五十五名來幡

八幡製鐵所罷工事件に關しては當局にては其推移を頗る重大視し更に憲兵を增加すべく七日夜に至り石光憲兵隊司令官は八幡市及製鐵所警備として姫路、岡山、廣島、久留米、熊本より總員五十五名の應援隊派遣の命を下したりと新納小倉憲兵隊長へ通告ありたれば右憲兵隊は八日正午迄には來幡し夫々警備の任に就きたり

在郷軍人訓示

製鐵所内在郷軍人分會にては同

[illegible]るもの〻如く數日來務官數名は同坑へ出張し人事係取締等と協[illegible]が出勤に努め居れるが各工場にては今の處何等不穏の模樣無きも頗る空氣緊張し居れり

三角同盟崩る

同志會は別途の行動

中川次長との會見顛末報道會

製鐵所の一部職工を以て組織せられし同志會は七日晝間の發會式を終り夜間又も午後八時より朝日座にて發會式を開會したるが來集せる會員千五百餘名に達し盛に氣勢を揚げしが十時

警官に鎭撫せられ

[illegible]を得たるが之れより先き紛議されつゝありし三角同盟は破れて勞友、友愛の提携と同志會は別途の行動を取る事となり反目するに至れり而して七日午後の中川次長との會見顛末報道會は勞友會、友愛會聯合にて昨日午後二時より中本町三丁目友愛會支部、中央區丸山町黒住教會、通町十丁目勞友會診療所及び勞友會本部に於て開催せられたるが開會と共に同志會員の徽章を附したる勞友會長淺原健三の實兄淺原鑛三郎、森重哲一の兩人立會演説を求めしも之に應ぜず一時

喧噪を極め

しも警戒の裡に友愛會員藤岡文六氏起ち手喝采に迎へられて演壇に立ち「職工諸君は昨日の中川次長の回答に對しては不滿ならんと推察するが子たる職工が親たる長官に對して不滿を抱くが如きは不都合なるも斯して不滿を抱かしむるが如きも又親たるもの〻子に對する親善を缺ぐ爲めならん吾人は之に對し何等與かり知